

第4章 2年次の調査研究について

- 1 モデル事業の視点
- 2 モデル地域選定の経緯と地域の特色
- 3 芦別市におけるモデル事業
- 4 鷹栖町におけるモデル事業

第4章 2年次の調査研究について

1 モデル事業の視点

住民が主体となる地域づくりを進めていくためには、住民自らが地域の課題や未来像を共有し、学びの成果を実感しながら、地域課題の発見から解決に至るまで共通理解の中で活動に取り組んでいくプロセスが重要である。

2年次目の調査研究では、これまでの質問紙調査、聞き取り調査等により導き出された重要な視点を組み込んだモデル事業を開発することにより、その効果を検証・追求していく。

(1) 聞き取り調査等による地域の実情やニーズの把握

地域づくりの特性のひとつは、解決しなければならない課題が地域によって異なり、複雑であることである。例えば、高齢化が進んでいる地域であっても、単身の高齢者が多い地域では見守りや交流の場を創るなどの課題があり、農村地域、商店街などとは課題が異なると同時に様々な要素が複雑に絡み合っている場合がある。こうしたことから、地域課題は丁寧に分解・分析し、取組を進めていく必要がある。

〔取組例〕

- 現地調査・・まち歩き、まち探検などの実地踏査や写真を使った学習
- ニーズ調査・・アンケート、ヒアリングなどにより住民の声を直接聞く
- 統計調査の収集と分析・・国勢調査、消費動向調査等により地域分析

(2) 事業に関わる人との方向性の共有

地域づくりは町内会、自治会、社会教育関係団体、学校関係者等、様々な考えや人間関係が混在して成立している。こうしたことから、学校教育でも取り入れ始めている、自分の学習と互いの学習を最大限に高め、多様性を重視しながら考え方を追求する協働学習の技法等を取り入れ、丁寧にベクトルを合わせていくなどの工夫が必要である。

〔活動例〕

- Think Pair Share・・進行者が課題を示し、一人で考えたあとに仲間とペアで話し合う
- Round Robin・・複数の答えがある課題や質問を示し、グループで考えを述べ合う

(3) 継続性のある取組とするための工夫

住民が主体となった地域づくりを継続していくためには、毎回の学習の中で丁寧な振り返りを位置づけていく必要がある。振り返りシートやアンケートの他に、途中でこれまでの取組を振り返るなど、学びを丁寧に咀嚼し、次にどのような展望があるかを発見していくプロセスを意図的に組み込むことで、住民が自らの学びや取組を分解することができ、他の場面でも経験を活かすことができるようになる。

(4) テーマ設定の工夫

住民にとって身近で目的を共有しやすいテーマを設定し、それぞれが持つ知恵や経験を出し合い、楽しくやりがいを持って取り組めるようにすることが重要である。大項目すぎると具体例が考えにくく、小項目すぎると参加できない住民がでてくるため、注意が必要である。

2 モデル地域選定の経緯と地域の特徴

(1) モデル地域の選定経緯

本道は、多くの市町村で人口減少が進み高齢化率が高くなっているが、人口構成は都市部との遠近によって差異が見られる。このことから、以下の評価項目を基本に、地域の特徴等、総合的に勘案して選定した。

ア 事業の実施体制

必要な実施体制（高等教育機関やNPO、民間団体、近隣市町村との連携等）の整備計画がなされているか。

イ 事業の実施計画、評価体制

スケジュールや実施計画が、地域課題解決のために具体的かつ無理のないものとなっているか。

ウ 事業経費

講師やセンター職員派遣の回数等が事業内容に対して過大な経費計画となっていないか。

エ 取組の趣旨、内容

事業の内容が本事業の趣旨に沿ったものであり、計画されている取組の内容や方法が、住民の主体的な地域づくりを進めるために妥当かつ有効なものとなっているか。

オ 事業実施により見込まれる成果、効果

どのような成果を得ようとするかが具体的に示され、他の地域で活用できるような効果的手法開発が期待できるか。

(2) 地域の特徴

ア 芦別市の特徴

北海道の内陸、空知管内に位置する芦別市。市域面積は道内では第5位の865.04㎢であり、そのうち森林が約88%を占める、自然豊かなまちである。その美しい自然と澄み切った空、降るように美しい星がまたたく夜空といった自然環境を活かし、昭和59年12月1日に「星の降る里」を宣言している。

芦別市では明治時代後半には空知の他のまち同様、石炭の採掘が本格化し、最盛期には7万5千人を超える人口を抱え、大きく発展した。しかし、基幹産業であった石炭産業の崩壊をはじめ、各産業の低迷と合理化により就業者数が減少し、総人口に占める就業者の比率が低位な状況にある。

令和元年12月末の人口は約1万3千人で、高齢化率は46.5%に上昇している。

イ 鷹栖町の特徴

北海道のほぼ中央、上川管内の中心部に位置する鷹栖町。北海道第二の都市旭川市に隣接している。周りを小高い山に囲まれ、全体的には盆地状をなし、中心部を石狩川に注ぐオサラッペ川が北から南へ貫流している。

品質・収穫量ともに道内屈指の稲作、付加価値の高いきゅうりの生産など、良質な農産物の供給地帯であるが、農家戸数の減少と農業従事者の高齢化等による労働力不足は深刻な課題となっている。

令和元年12月末の人口は約7千人で、高齢化率は33.5%に上昇している。

3 芦別市におけるモデル事業

学校教育と社会教育を通じて、若者が地域に幅広い繋がりを持ち、自ら問いを立ててその解決を目指す人材へと成長していく過程を支援することは非常に重要である。

こうしたことから、芦別市におけるモデル事業では、高校生にフォーカスを当て、高校生が地域の様々な課題を学び、解決に向けた取組を考えることを通じて、地域の担い手となることを目指していく。

実施理由	芦別市の魅力を発見・発掘する取組を通して、地域の担い手を育てたい。	
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道芦別高等学校 ・芦別市民会館 	
参加対象者	芦別高等学校在校生 全生徒中 10名程度	
事業後の参加者の活動に対する見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道芦別高等学校が独自に行っている活動（農業まつり、キラキラフェスタへの独自出店等）を全市的に協働・協力できるような体制づくり ・Uターンに繋がる取組の展開 ・国内外観光客の誘致に繋がる取組の展開 	
連携を予定している機関	北海道芦別高等学校	
講座予定回数	5回（うち講師派遣2回）	
年度ごとの取組イメージ	1年目	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の良さを棚卸し ・高校生視点での新たな取組の企画立案
	2年目	<ul style="list-style-type: none"> ・1年目に計画した取組の実施

4 鷹栖町におけるモデル事業

次世代を担う若者が、社会教育による学びを通じて地域の課題やその解決方法を様々な世代の住民と共に実践的に学ぶことは、持続可能な地域運営につながる。

こうしたことから、鷹栖町におけるモデル事業では、若者の声やニーズを若者自身が実際に具現化、実装化する取組を通じて、地域への愛着を育むことを目指していく。

実施理由	新たな総合計画及び社会教育中期計画で「子どもから大人までのふるさと共育」に重点を置いているが、これまで高校生世代を対象とした社会教育的要素をもった取組は展開できていなかった。こうしたことから、高校生世代を対象として、地域への愛着を育み、結果的にまちづくりへの参画へ繋がる新規事業を確立させたいと考える。	
実施場所	鷹栖町内	
参加対象者	町内に在住の高校生、北海道鷹栖高校に通学する高校生 5～10名程度	
事業後の参加者の活動に対する見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業から生まれた新たなコミュニティによる取組の展開 	
連携を予定している機関	北海道鷹栖高等学校	
講座予定回数	5～6回（うち講師派遣2回）	
年度ごとの取組イメージ	1年目	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなコミュニティの創出 ・高校生視点での新たな取組の企画立案
	2年目	<ul style="list-style-type: none"> ・1年目に計画した取組の実施 ・高校生のアイデアや発想の具現化に向けた取組